



平成30年8月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月15日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社
コード番号 3536 URL <http://www.axas-hd.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久岡 卓司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 新藤 達也

TEL 078-335-8844

四半期報告書提出予定日 平成30年1月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第1四半期の連結業績(平成29年9月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第1四半期	3,497	4.8	48	2.1	28	17.8	35	68.8
29年8月期第1四半期	3,337		49		24		114	

(注) 包括利益 30年8月期第1四半期 37百万円 (68.2%) 29年8月期第1四半期 118百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第1四半期	1.18	
29年8月期第1四半期	3.97	

当社は、平成28年3月1日設立のため、平成29年8月期第1四半期の対前年四半期増減率は記載しておりません。
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年8月期第1四半期	11,565	1,293	11.2	42.64
29年8月期	11,051	1,315	11.9	43.40

(参考) 自己資本 30年8月期第1四半期 1,293百万円 29年8月期 1,315百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期		0.00		2.00	2.00
30年8月期					
30年8月期(予想)		0.00		1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

配当金の内訳

平成29年8月期期末 普通配当1円00銭、特別配当1円00銭

3. 平成30年8月期の連結業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,607	6.4	169	2.3	117	2.0	106	46.9	3.51
通期	15,260	6.3	305	16.6	174	15.1	151	16.9	5.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年8月期1Q	32,258,453 株	29年8月期	32,258,453 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年8月期1Q	1,933,200 株	29年8月期	1,933,200 株
----------	-------------	--------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

30年8月期1Q	30,325,253 株	29年8月期1Q	28,960,453 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日）のわが国の経済は、欧州の政治情勢や朝鮮半島及び中東の政情不安等を要因とする地政学リスクへの警戒感が一段と強まるなか、国内景気は海外経済の回復と金融緩和等の要因により緩やかな拡大を続け、平成29年9月には高度経済成長期の「いざなぎ景気」を超え、戦後2番目に長い景気回復期にあります。しかし個人消費については、社会保険料等の増加に伴い可処分所得の伸びは鈍く、消費者はいまひとつ好況の実感を抱けず低価格志向が引続き高く残る一方、少し価格が高めでも「健康」、「安全」や「好きな物」といった価値重視の高額消費が一部で見られる等、消費の二極化が進み、商品・サービスを選別する消費者の目がますます厳しくなっております。そのような経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の生活文化の質的な向上を「美・健康・ゆとりの側面」から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値の更なる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的には、平成29年9月アレックスコンフォート神戸北店（神戸市北区）において、面積当たりの販売効率アップを図るため好調部門の陳列什器を高さのあるメタルラック什器に変更した他、新たなカテゴリーとしてアパレル、アウトドア及びヴィンテージ家具を導入し、店舗の内装も清潔感と高級感を演出する木目の床材に変更する等のリニューアルを実施いたしました。また、平成29年11月デコールブルメールHAT神戸店（神戸市中央区）において、集客力を高めるため生活必需品である一般化粧品や日用品のラインアップを充実させる等の商品入替とカテゴリーレイアウトの変更を伴ったリニューアルを実施いたしました。更に、同年同月チャーリーサザンモール六甲店（神戸市灘区）において、従来から取扱いしている一般化粧品部門との相乗効果を高め、より幅広いお客様に喜んで頂ける品揃えにするため、隣接しているアレックスコンフォートサザンモール六甲店で取扱いしていたインポートコスメやフレグランス等の商品をチャーリーサザンモール六甲店に移設した一方、アレックスコンフォートサザンモール六甲店では、好調カテゴリーのアパレルや新規カテゴリーのヴィンテージ家具を導入するリニューアルを実施いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、売上高は3,497百万円（前年同四半期比4.8%増）となり、営業利益は48百万円（同2.1%減）、経常利益は28百万円（同17.8%増）となりました。法人税等を加えまして、親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円（同68.8%減）となりました。

セグメント別業績は次のとおりであります。

① 小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケア事業部では、テーマに沿った季節の商品、話題の新商品やこだわりの商品等の価値や使い方を訴求した商品提案型広告において、雑貨中心の紙面からコスメや薬等、チャーリー本来の商品掲載数を増やしたことや、平成29年11月チャーリーサザンモール六甲店において、インポートコスメ、フレグランス商品及びベビー衣料・玩具といった新規カテゴリーを導入したことにより、化粧品部門、日用品部門、雑貨部門等が堅調に推移し、既存店ベースで客単価が前期実績を上回り、特にビューティーライフストア店舗におきましては売上高、売上総利益が前期実績を上回っております。

ライフスタイル事業部では、前述のアレックスコンフォート神戸北店やアレックスコンフォートサザンモール六甲店のリニューアルによりバッグ部門、服飾部門及びトップス部門が既存店ベースで売上高、売上総利益共に前期実績を上回りました。文具ユニット店舗では、パーソナル文具、雑貨ユニット店舗では、服飾雑貨、財布やキッチン食材、そしてハイブリッド各店舗では、メイク、スキンケアやフレグランス等の一般化粧品が前期実績を上回りました。

アスレ事業部では、アウトドアカジュアル、フィットネスウェアやスポーツカジュアル等の秋冬Newモデル商品やスポーツウェアを普段着に取り入れたアスレジャースタイルの商品提案型広告を実施したこと等により、人気ブランドのアウトドアウェアやスポーツカジュアルウェアが堅調な動きを見せ、客単価が前期実績を上回りました。

アルコ事業部では、主要部門である酒類部門において、近年の人口減少による需要の減少、とりわけ若者層のアルコール離れが進むなか、平成29年6月からの酒税法改正に伴い酒類の安売り規制が施行され、値上げによる買い控えや客数減少により、ビール部門においては、売上点数は前期より減少したものの、1点当りの商品平均単価が上がったため売上高は微増し、売上総利益は改善傾向にあります。一方、国内での消費量が伸びてきているワイン部門においては、良質で厳選されたワインを、自由に2本組み合わせでお買上げしていただくバンドル販売を本格的に展開し、またセラー商品の販売強化等により売上高、売上総利益共に前期実績を上回りました。

ホームキーパー事業部では、既存店舗においてG o G o CAMP部門、住宅設備部門、DIY用品部門の大工・作業道具や木材補修用品の作業用品の売上高、売上総利益が前期実績を上回りました。また広告紙面商品をディスカウント中心に変更し、消耗品や食品等を増やしたことにより、日用品部門の紙類、洗濯洗剤の売上高、売上

総利益は前期実績を上回りましたが、事業部全体を押し上げるまでには至っておりません。また、前述のデコールブルメールHAT神戸店においては、リニューアルを実施したことにより、客数は増加傾向にあります。

これらの結果、売上高は2,409百万円（前年同四半期比0.6%減）、セグメント利益は87百万円（同25.8%減）となりました。

② 卸売事業

卸売事業につきましては、最需要期を迎える年末を控え、ラグジュアリー要素の強いシャンパンと呼ばれるスパークリングワインが引き続き売上高を牽引しました。また、これまで停滞気味であった専門要素の強いモルトウイスキーが、オールドビンテージウイスキーを中心に志向の多様化と高級志向の流れから、販売増加が見られました。

オリジナル商品については、顧客の声を重視し、よりニーズに合わせられるようにマーケットインで開発したスピリッツ類が、固定客獲得と共に安定的に売上を伸ばしております。

これらの結果、売上高は1,088百万円（前年同四半期比21.4%増）、セグメント利益は75百万円（同27.1%増）となりました。

③ その他

当セグメントには不動産賃貸事業等の売上高が含まれております。当第1四半期連結累計期間の売上高は89百万円（前年同四半期比8.1%増）、セグメント利益は31百万円（同18.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は11,565百万円（前期末比4.6%増）となり、前連結会計年度に比べ513百万円増加しました。これは主に、たな卸資産547百万円、売掛金63百万円等の増加に対し、現金及び預金103百万円等の減少によるものであります。

負債合計は10,272百万円（同5.5%増）となり、前事業年度末に比べ536百万円増加しました。これは主に、短期借入金620百万円等の増加に対し、長期借入金65百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は1,293百万円（同1.7%減）となり、前事業年度末に比べ22百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益35百万円による利益剰余金の増加に対し、配当金の支払60百万円（連結子会社が所有している自己株式に係る配当金を除く）等による利益剰余金の減少によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は11.2%（前期末比0.7ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年10月16日付「平成29年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	892,446	788,910
売掛金	461,970	525,660
たな卸資産	3,850,578	4,398,416
預け金	141,848	141,848
繰延税金資産	119,639	121,295
未収還付法人税等	228	—
その他	182,270	190,994
貸倒引当金	△3,512	△3,297
流動資産合計	5,645,472	6,163,828
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,561,715	1,539,892
機械装置及び運搬具（純額）	8,620	6,725
什器備品（純額）	163,390	163,091
リース資産	798	—
土地	2,811,069	2,811,069
建設仮勘定	556	1,130
有形固定資産合計	4,546,150	4,521,909
無形固定資産		
借地権	30,296	30,296
ソフトウェア	63,545	73,559
リース資産	552	—
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	102,216	111,677
投資その他の資産		
投資有価証券	143,800	156,189
敷金及び保証金	575,887	574,094
破産更生債権等	12,597	13,219
その他	40,817	40,654
貸倒引当金	△15,205	△16,330
投資その他の資産合計	757,897	767,826
固定資産合計	5,406,264	5,401,413
資産合計	11,051,737	11,565,242

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	787,867	796,659
短期借入金	5,840,000	6,460,000
1年内返済予定の長期借入金	271,748	271,748
リース債務	22,358	13,855
未払金	240,292	239,448
未払法人税等	20,978	5,256
賞与引当金	36,640	53,062
ポイント引当金	21,542	21,231
その他	74,947	71,914
流動負債合計	7,316,374	7,933,175
固定負債		
長期借入金	1,811,363	1,745,926
リース債務	6,502	5,153
受入保証金	271,791	267,882
資産除去債務	171,727	172,122
役員退職慰労引当金	21,675	25,287
金利スワップ負債	13,736	11,796
その他	122,569	110,772
固定負債合計	2,419,366	2,338,941
負債合計	9,735,741	10,272,116
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	6,451	6,451
その他資本剰余金	1,776,695	1,776,695
資本剰余金合計	1,783,147	1,783,147
利益剰余金		
利益準備金	—	6,048
繰越利益剰余金	△449,134	△480,006
利益剰余金合計	△449,134	△473,958
自己株式	△96,660	△96,660
株主資本合計	1,287,352	1,262,529
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,643	30,596
その他の包括利益累計額合計	28,643	30,596
純資産合計	1,315,995	1,293,125
負債純資産合計	11,051,737	11,565,242

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成29年11月30日)
売上高	3,337,006	3,497,088
売上原価	2,445,376	2,593,531
売上総利益	891,629	903,556
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	282,647	297,625
その他	559,038	557,035
販売費及び一般管理費合計	841,685	854,661
営業利益	49,944	48,894
営業外収益		
受取利息	223	176
受取保険金	2,738	369
金利スワップ評価益	—	1,940
その他	2,119	2,552
営業外収益合計	5,081	5,039
営業外費用		
支払利息	23,477	19,660
為替差損	4,986	3,149
その他	1,958	2,151
営業外費用合計	30,422	24,962
経常利益	24,603	28,971
特別利益		
固定資産売却益	94,862	—
特別利益合計	94,862	—
特別損失		
閉店損失	1,298	—
固定資産除却損	—	201
特別損失合計	1,298	201
税金等調整前四半期純利益	118,167	28,769
法人税、住民税及び事業税	5,237	5,256
法人税等調整額	△1,967	△12,314
法人税等合計	3,269	△7,057
四半期純利益	114,897	35,827
親会社株主に帰属する四半期純利益	114,897	35,827

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	114,897	35,827
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,964	1,952
その他の包括利益合計	3,964	1,952
四半期包括利益	118,861	37,780
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,861	37,780

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年9月1日 至 平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			そ の 他 (注) 1	合 計	調 整 額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計 上 額 (注) 3
	小 売 事 業	卸 売 事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,423,247	830,560	3,253,807	82,818	3,336,625	381	3,337,006
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	66,500	66,500	214	66,714	△66,714	—
計	2,423,247	897,060	3,320,307	83,032	3,403,339	△66,333	3,337,006
セグメント利益	117,311	59,039	176,351	26,315	202,666	△152,722	49,944

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△152,722千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年9月1日 至 平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			そ の 他 (注) 1	合 計	調 整 額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計 上 額 (注) 3
	小 売 事 業	卸 売 事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,409,192	998,342	3,407,534	89,553	3,497,088	—	3,497,088
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	90,422	90,422	214	90,636	△90,636	—
計	2,409,192	1,088,765	3,497,957	89,767	3,587,725	△90,636	3,497,088
セグメント利益	87,087	75,066	162,153	31,060	193,214	△144,319	48,894

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△144,319千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、当社連結子会社であるアクサにおける固定資産の取得について、平成29年12月14日開催の取締役会において決議のうえ承認いたしました。これに伴い、同日開催のアクサの取締役会において固定資産の取得を決定しております。

1. 当該子会社の概要

(1) 名 称	アクサ
(2) 所 在 地	徳島県徳島市山城西四丁目2番地
(3) 代 表 者 の 役 職 氏 名	代表取締役社長 久岡 卓司
(4) 事 業 内 容	化粧品、生活雑貨、スポーツギア、アウトドアギア、酒類等の小売及び酒類、化粧品等の輸入卸
(5) 資 本 金	90百万円

2. 取得資産の内容

(1) 取得資産の概要

資 産 の 内 容 及 び 所 在 地	取 得 価 額	現 況
所在地： 徳島県徳島市間屋町3番、160番	408百万円	アクサ 文具館沖浜店
土 地： 宅地3,083.00㎡		
建 物： 鉄骨造陸屋根アルミニウム板・鋼板葺 2階建 店舗 延床面積1,381.35㎡		

(注) 取得価額に関しては、第三者機関より不動産鑑定評価書を受領しており、客観性ある評価を基に取得価額を決定いたしております。

(2) 決済方法

取得資金につきましては、自己資金及び金融機関からの借入によっております。

3. 取得の理由

当社の連結子会社であるアクサは、「文具館沖浜店」の店舗を、当社の関連当事者である本件取引先より賃借しております。

当該賃借不動産の取得により、関連当事者との取引を解消し、且つ同店における利益の向上及び長期的なキャッシュ・フローの向上を図ることを目的としております。

4. 取引先の概要等

(1) 名 称	ノヴィル株式会社
(2) 所 在 地	徳島県徳島市沖浜東三丁目15番地
(3) 代 表 者	代表取締役社長 久岡 征司
(4) 事 業 内 容	アミューズメント事業
(5) 資 本 金	50百万円
(6) 設 立 年 月 日	昭和43年5月11日
(7) 資 本 関 係	該当事項はありません。
(8) 人 的 関 係	該当事項はありません。
(9) 取 引 関 係	当社の連結子会社であるアクサが、本件不動産を取引先より賃借しております。
(10) 関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	代表取締役社長久岡卓司の近親者が議決権の過半数を所有している会社に該当いたします。

5. 日程

(1) 取締役会決議日 平成29年12月14日

(2) 契約締結日 平成29年12月27日

(3) 物件引渡日 平成29年12月27日

6. 今後の見通し

本件による、平成30年8月期の連結業績に与える影響は軽微であります。